

尾崎喜左雄先生の生涯

群馬とのつながりとは？

簡単な時系列表

- 
- ・桐生鹵簿誤導事件きりゅうろぼごどうじけん

昭和天皇一行を誤って先導

- ・知事の交代

金澤知事→君島知事

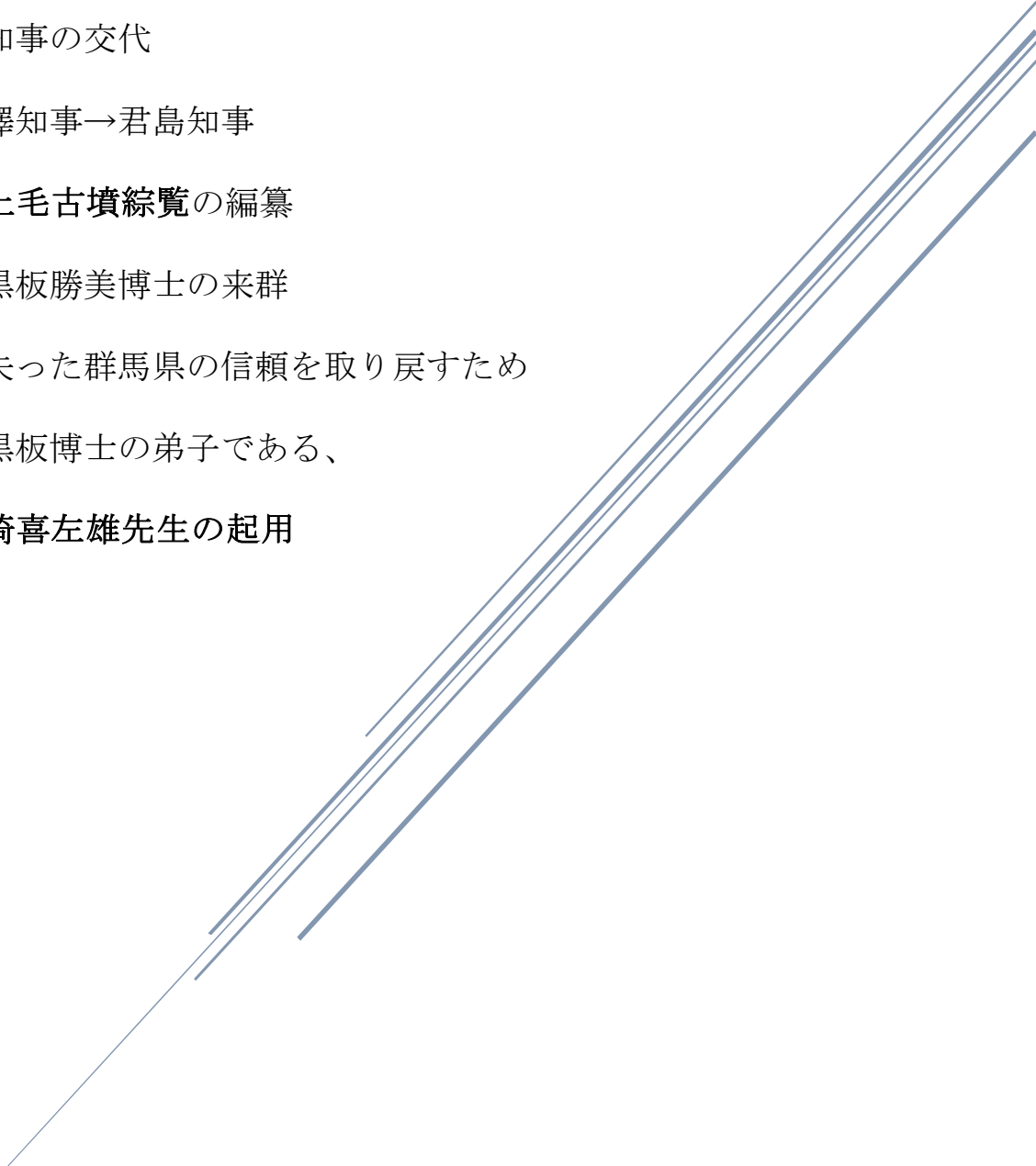
- ・上毛古墳綜覧の編纂

- ・黒板勝美博士の来群

→失った群馬県の信頼を取り戻すため

- ・黒板博士の弟子である、

尾崎喜左雄先生の起用



尾崎喜左雄が群馬に来るまで

群馬との
つながり

尾崎喜左雄氏の来群



【上写真】君島清吉知事

(引用：宮崎県歴代知事 [宮崎県：宮崎県
歴代知事 \(miyazaki.lg.jp\)](http://miyazaki.lg.jp))

上毛古墳綜覧の刊行

昭和 13 年に上梓された「上毛古墳綜覧」は、古墳大国群馬を象徴する歴史資料の一つである。県内一斉の古墳調査は、全国的に見ても先駆的な取り組みとして実施したという点において、古墳研究史上大きな意義を持つ。8,423 基の古墳情報は、現在の研究精度から見れば、その制度や正確さが十分とは言い切れない。しかし「上毛古墳綜覧」及び膨大な量の「古墳調査票」とその添付資料には、古墳に関する当時の情報が数多く盛り込まれており、これらの情報は古墳大国群馬を体現するためには不可欠なものである。

「上毛古墳綜覧」及びその他の資料は、現在私たちが訪れることができる古墳が昭和 10 年段階でどのような状態であったかを知ることができるとともに、現在では失われてしまった古墳においても、当時の記述から、かつての姿や基本情報を得ることを可能にするものである。

桐生鹵簿誤導事件とは？

昭和 9 (1934) 年 11 月 16 日、昭和天皇一行が陸軍大演習の視察後、群馬県桐生市に行幸。その際に先導する警部が途中で道を間違え、訪問先を予定と異なる順で回ってしまう。この事件により金澤知事が依願免官となった。

Q. 桐生鹵簿誤導事件と尾崎喜左雄氏はどんな
つながりがあるの？

A. 群馬県の汚名を返上するため、翌 10 年に新たな群馬県知事である君島清吉知事が任命される。彼は東京帝国大学の黒板勝美教授を群馬県に招き、教授の提言により、古墳台帳の作成が行われた。その際、膨大な調査台帳を取りまとめるために尾崎喜左雄氏を招く。

【左写真】

黒板勝美教授



(引用：波佐見町歴史文化交流館 [波佐見町
の先覚者／波佐見町
\(hasami.lg.jp\)](http://hasami.lg.jp))

桐生鹵簿誤導事件の影響

桐生鹵簿誤導事件は、群馬県にとって不名誉な事件として歴史に刻まれた。しかし、もしこの事件がなければ、尾崎先生は来群することはなかっただろう。なぜなら、この事件により、県内一斉の古墳調査が行われ、膨大な古墳調査や記録が発見され、文化財保護行政・教育に関わる人たちの古墳に対する姿勢は大きく変化したからだ。

尾崎喜左雄の生涯

尾崎喜左雄のプロフィール 群馬とのつながり！

明治 37 年、神奈川県足柄上郡川村にて生まれる。
昭和 8 年、東京帝国大学文学部国史学科入学。
昭和 11 年、東京帝国大学文学部副手嘱託
昭和 11 年、京都帝国大学文学部考古学研究室で古墳研究。

昭和 12 年 10/2 応召～昭和 15 年 10 月召集解除

昭和 13 年、「上毛古墳綜覧」が刊行される。
昭和 23 年に、前橋市粕川町の鏡手塚古墳に始まり尾崎先生が古墳発掘した古墳は 360 基以上を超える。
その後、昭和 24 年に群馬大学教授に就任された。
昭和 45 年、群馬大学退官。群馬大学名誉教授に！
昭和 53 年、逝去。

尾崎先生が斯界に残した業績は大き



上毛古墳綜覧はまさかの尾崎先生が召集中に刊行！

尾崎先生と尾崎研究室について

- ・研究室では「泥落とし」と呼ばれる、無礼講での飲み会があった。他にも、「史学会」という集まりや歴史研究部のコンパなどがあり、尾崎先生と研究生は親睦を深め合った。
- ・関西旅行という 1 週間ほどの旅行もあった！もちろん尾崎先生も同行した！
- ・「卒論指導」では先生の指導の徹底と厳しさを感じた。
- ・人と人との絆の深い研究室であった。



机古墳（吾妻郡東吾妻町岩下）

【写真上】机古墳の発掘概要を地域の方に説明している様子。

【写真右】尾崎先生とかかわった人物。



尾崎先生の性

- ・尾崎先生はクリスチャンであった！研究には厳しく人には優しい。
- ⇒おしゃれでいつもかくしゃくとした身支度であった。マナーに厳しい...
- ・法律家でもあった
- ⇒事実に従って論じ、整理することの大切さを学ぶことができた。

尾崎先生と地域の関わり

- ・研究室は千客万来であった。（相沢忠洋さんや熱心な考古学ファン、尾崎先生ファンもいた。）
- ⇒どんな人にも丁寧に、リスペクトをもって接した尾崎先生のお人柄によるもの。
- ・地域の人にも失礼のないように、研究生にも指導されていた。

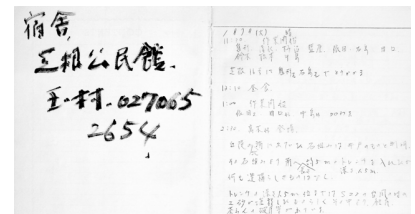
尾崎喜左雄と群馬県古墳研究

古墳の大家!! 群馬にどのような形で貢献したか



【写真下】玉村古墳群での尾崎先生（昭和 42 年）

尾崎喜左雄（1904～1978）は、群馬県古墳研究を牽引した研究者の一人である。黒板勝美博士の推薦により群馬県嘱託となった尾崎先生は、300 基以上の古墳を発掘した。昭和 23 年の鏡手塚古墳（前橋市）や鶴山古墳（太田市）の調査をはじめとし、昭和 45 年まで群馬大学で発掘調査を続けた！



【写真上】玉村芝根 16 号墳調査日誌

尾崎喜左雄が発掘調査にもたらしたもの

・尾崎先生が発掘した古墳の多くは横穴式石室を埋葬施設としていたが、その多くは盗掘を受けていた。そのため、副葬品を基準とした古墳の編年ができなかった。
➡尾崎先生は石室の構造的特色を基準にした古墳の編年の研究の模索をし始める。その結果、玄室の長さや幅の構成比や使用尺度の変化から古墳の新旧関係を見出す！



【写真上】玉村町第 14 号古墳横穴式石室側壁

・また尾崎先生は古墳と榛名山噴火に伴う火山噴出物の層位学的関係に着目した。
➡尾崎先生はこの層位学的関係の成果を横穴式古墳編年に介在させることにより仮説の妥当性を補強した！

古墳に関する著書

昭和 27 年、古墳に関する最初の著書『古墳のはなし』（世界社）が出版される。
昭和 41 年、代表的著作「横穴式古墳の研究」（吉川弘文館）を上梓し、それまでの古墳研究の成果を発表した。

尾崎喜左雄とは

尾崎喜左雄先生は、地域の歴史研究を進めることこそが、正しい日本史理解につながると説いた。

➡これらのことを伝承し、実践されてきた尾崎先生は「群馬県古墳発掘の父」の名にふさわしいと言える！